

		<p>学校データ 【学級数】 7学級 【児童数】 65人 【地域コーディネーター の有無】 有</p>
<h2>佐渡市立両津吉井小学校</h2>		

郷土に愛着と誇りをもつ子どもの育成

1 はじめに

吉井地域は、自然豊かで伝統芸能が盛んな地域である。校舎の周りは、360度木々に囲まれ、四季折々の景色を味わうことができる。また、学校近くには、地域の方々が整備、維持してくださっている「よしいっ子の森」「どんぐりの森」があり、子どもたちのよき教育活動の場となっている。

吉井地域は、7地区で構成されており、7地区それぞれに特徴の違った鬼太鼓が存在する。また、昔、地域の人が能を娯楽として楽しんでいたという歴史があり、今も能舞台が存在する。

このような教育環境の中、当校では、地域の自然、芸能、産業等について学ぶ「ふるさと学（佐渡学）」をとおり、「郷土に愛着と誇りをもつ子の育成」に取り組んでいる。

顔負けの迫力がある。発表の場として、文化祭で保護者や地域の人に披露している。



文化祭での鬼太鼓発表

○能楽

4・5年生が、能楽について学習している。師範の先生を講師として招き、5月から週1回の稽古を積む。4年生が地謡、5年生が仕舞を務め、地域の能舞台で2回、文化祭を含めると年3回の発表を行っている。保護者だけでなく、地域の方もたくさん発表を見に来てくださり、子どもたちの発表を賞賛していただいている。



地域の能舞台での発表

2 取組の実際

(1) 地域の芸能を学ぶ

○鬼太鼓

1～3年生が、自分の地区の鬼太鼓を習得している。指導者は、各地区の鬼組の方々である。9月から毎週のように来校し、子どもたちの指導を行ってもらっている。本来の大人の鬼太鼓を簡略化した舞いとなっているものの、3年間学習する3年生の舞いは、大人

(2) 地域の自然を学ぶ

○育樹祭

4・6年生は、毎年秋に行われる「どんぐりの森」の育樹祭に参加している。育樹祭は、地域の有志会「上横山自然公園をつくる会」が主催するイベントである。森林の中で、どんぐりの木の間伐・枝打ちなどの体験活動や環境をテーマとした授業を行っている。

指導者は、有志会のメンバーや地域

コーディネーターである。自然を感じ、自然に親しむ貴重な時間である。



育樹祭での枝打ち作業

○よしいっ子の森活動

学校の敷地に隣接する「よしいっ子の森」は、元保護者で結成する「おやじの会」が整備、維持してくださる森である。この森では、低学年が、生活科で季節ごとに自然観察を行ったり、椎茸の栽培を行ったりしている。地域の方を指導者として、

3月に椎茸の駒打ち体験を行い、春と秋には収穫を楽しむ。



椎茸の駒打ち作業

(3) 地域の産業を学ぶ

○吉井茶（佐渡番茶）

吉井地域は、佐渡でもめずらしいお茶の産地である。地域の特産品を学ぶことを目的に、3年生が総合的な学習の時間に吉井茶について学習している。吉井茶をもっと知りたい、もっと知ってもらいたいという思いから、茶摘み体験やお茶工場見学などを行っている。

地域の生産者でつくる「お茶倶楽部」のメンバーやJAの協力を得ながら学習を進めている。



茶摘み体験

今年度は、新潟県学校生活協同組合が、教育支援商品として吉井茶（佐渡番茶）を販売している。

3 成果と課題

児童生活アンケートの質問項目「ふるさと学の活動をとおして、佐渡のよさを見直したり、ふるさとのことが好きになったりした。」において、90%の児童が肯定的な評価をしている。また「ふるさと学の活動が、地域の人役に立っていると感じる。」においては、85%の児童が肯定的な評価をしている。

吉井地域の自然、芸能、産業等を学ぶ「ふるさと学」とおし、子どもたちは、地域の「ひと・もの・こと」と深くかわり、地域のよさを実感している。そしてそれが、環境保全や芸能、産業についての発信・継承といった地域への貢献意識にもつながっている。

これからも、地域の方々の理解と協力を得ながら、「ふるさと学」を継続、充実させていく必要がある。また、児童の数や興味・関心などの実態を踏まえた活動方法の工夫も必要であると感じている。

4 おわりに

当校は、昭和37年に創立し、今年度創立60周年を迎えた。同窓会やおやじの会といった卒業生や保護者OBで組織する団体があり、学校の応援団として環境整備や教育活動に協力していただいている。

10月には60周年記念式典を実施し、これまで学校を支えてくださった地域の方からの講話や各地区の鬼組の方々から鬼太鼓の披露をしていただいた。地域の学校への思いや期待の強さを改めて実感する式典となった。

今後も、地域の学校への思いや期待をしっかりと受け止め、「ふるさと学」により、子どもたちの地域への愛着、思いを育んでいきたい。